

忘却されている国内の原爆被害者

(朝鮮日報 8月7日)

解放以後 23年、政府が樹立されて 20年になるにもかかわらず、わがわがは異民族に踏みつけられ、苦しみから現実的に脱け出しなっている。6月1日の曹溪寺で、初めて一回原爆犠牲者慰霊祭が行われた。6日は、人類史上、最初の原子爆弾が日本の広島に投下された日である。ついで 1945年8月9日には長崎にも投下された。この二度の原爆投下により、約20万人のぼる人命が瞬時に犠牲となり、これに加えてわが同胞も約5万人命をなくした。

2
当時、広島には 6万2千名の同胞が住んでおり、そのうち

約4万5千名が犠牲となり、長崎^には 3万名の同胞の

うち、約1万5千名が犠牲となった。しかし、これはそれ

で終わったのではない。現在、祖国に帰っている広島、

長崎からの帰還同胞中、約5千名の直接的な原爆

被害者がおり、その子供まで合わせるとその数は、

3万名に上る。これらの中には原爆病と呼ばれる

各種の被爆後遺症が著しく不具の身に呻吟して

いる者が少なくなく、また顕著な症状が現われ

ていなくても潜在的な発病の可能性に恐怖を

感じているものが大部分である。われわれは他人

を喰う前に、このような多くの犠牲者がわれわれの内部
で呻吟していた事実にもっと積極的な関心を向けえ
なされたことも自戒しなければならぬ。今回の
慰霊祭は、このような意味で、われわれを覚醒するのに
大きな意義があった。

独立した主権国家としてわが政府が日本との
国交を打開する際、このような特殊な犠牲者に
対する日本側の補償をうるのに手ぬかりがあった
ことは、事実である。日本は、自己の戦後收拾過
程において、まず最初に奉行的に対処したのが、
原爆被災者救護事業であった。史上最初の惨

事を経験した彼らとしては、当然のことであつたといえよう。

しかし、同じ原爆の犠牲者である韓国人には、これまで

たれも顧^みてくれないものがあつた。やっと今年に

なつて日本の医療界人士が来韓し、一部の実態把握

に協力し、現在、広島、長崎等で韓国人被害者のた

めの募金運動が展開されているという消息があるのみ

で、これまでは、ほとんど犠牲者向けの集りが東京

西走し、政府にも救護を要請したが、これといった

対策が講じられなかった。原爆はわが国土で

経験したものであるが、人類史上最初のことでもある

ので、われわれとしては、原爆病に対処する方法が

よくわかってない。このような案から政府は、経験の豊富な日本はもちろん、関係がないとはいえない米国の協力をえて、一日も早く、わが同胞の犠牲者を助けなければならぬ。そして異民族により経験した苦しみ、痕跡を拭いさるゝことが相互の将来にとり望ましいことである。